

こころ便り

第292号

令和6年7月

〒679-1434

兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社 新宮運送グループ
代表/木南 一志

kininami@shingu.co.jp
電話 0791-751212



新宮運送ホームページ

「公」と「私」

今月から新しいお札が流通することになる。キャッシュレスと言われる時代になりつつあって、お札を新しくする必要があるのかという記事もあった。

渋澤栄一翁の一万円札がどのような意味を持つのかと考えると、道徳を忘れた日本経済に警鐘を鳴らす意味合いがあるのではないかと思う。

会社は利益を追求する組織ではあるが、その前にあるべき基礎が「道徳」である。世の中を良くしながら成長する組織でなくてはならない。虚偽の認証や脱税などで利益を確保することなどはあつてはならないことで、自社内で発覚するまでに修正が利くような仕組みづくりが必要である。

ところで、個人の尊重が進み過ぎた感があるように思えてならない。「公」ということを、やるのが当たり前だろう、税金を払っているのだから当然と表現する若者もいる。まるで自分が殿様のように勘違いしている。

「私」という存在は「公」の中にある。自分の中に少しだけ「公」が存在しているのではないのだ。

【公】とは、広辞苑によると、共有、公共とい

う意味のほかに、かたよらない、正しいともある。「私の意見は正しい」と、いくら大声で叫んだとしても、多くの支持を得られないことには認めてもらえない。都知事選で、ほぼ全裸のポスターが貼られたが警視庁からは警告だけで終わりになる。貼った本人にも権利があるからだ。昔の人なら「みっともない」だけで、社会から抹殺されたのではないか。「公」の示す力は、便利なこの時代に消し去られてしまったかのようなだ。

アメリカファースト、都民ファーストなどと自分を最優先する社会が正しく世の中を導いていくことは決してない。

「公」の役割をお互いが意識することで、少しずつ譲り合うことになり、余裕も生まれてくる。そうすることで正しいことがハッキリとしてくるのだと考えているのだが、世の中は個人優先で欲望のままに自己満足を追いかけていく。

新しい一万円札を見て、考えてもらいたい。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校國史 上巻

第十四藤原氏の専横②

道長は時平の弟なる忠平の曾孫にして第六十一條・第六十三條・第八代後一條三天皇の御代に三十餘年の間、朝廷にありて勢をふるひ、其の女は三人まで皇后となり、其の外孫に當たらせたまふ皇子は、三人まで引きつゞきて御位に即きたまへり。後一條天皇の御代、道長攝政となり、其の女ついて皇后に立ちし時、道長喜にたへず、歌をよみていはく、

このよをばわがよとぞ思ふ、もち月の
かけたることもなしと思へば。

と。此の歌は、おのが望の皆かなひたるを、十五夜の満月に引きくらべて、此の世はおのれ一人のものぞといふ意味にして、其の榮華にはこれるさまを知るべし。

かくて道長の富は皇室にもまさり、思ふまゝにおごりをきかめたり。かつて法成寺を京都に建てしが、此の寺は奈良の東大寺にも劣らざる大寺なりき。其の時道長は、ほしいままに公卿等に命じて、宮中・諸官省などにある石を取りて建築場に運ばしめたり。然るに工事の出来上らざるうちに、道長病にかゝりしかば、其の子頼通令を下していはく、「朝廷の事は後まはしとすとも、法成寺の御用は怠ることなかれ。」と。

